

生産現場での課題を取り入れた教育内容の充実

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、農業に関し幅広い視野と高度な経営能力を有し、農業振興に貢献する経営感覚に優れた農業者等の養成を行っています。29年度は、東京オリンピック・パラリンピック開催で関心が高まっているGAPの授業、イノシシ等の野生鳥獣による被害防止対策の特別講義、現場へ導入が進んでいるICT技術を活用した農業機械の実演会等、生産現場での課題をいち早く取り入れた教育を展開し、教育内容の充実を図っています。

GAP(農業生産工程管理学)の授業を開始

2020年東京オリンピック・パラリンピックへの国産農畜産物の供給や輸出拡大、農業人材の育成などの観点から重要となっているGAPの授業を1年生を対象に本年度から新規に始めました。GAP概要の講義、農場評価基準を用いた演習、GAP認証取得農業生産法人見学を行うことで、GAPについての知識・技能の取得を図ることができました。今後は、農業大学校でASIAGAP等の認証取得を目指します。



GAP認証農業生産法人の見学



農作物野生鳥獣対策アドバイザーによるワナ等の捕獲方法の実演

鳥獣害対策特別講義

茨城県内でもイノシシ、ハクビシン、カモなどの野生鳥獣による農作物被害は大きく、その被害防止対策は農業・農村にとって緊急の課題となっています。このため、農作物野生鳥獣対策アドバイザーや県担当職員を講師に招いて野生鳥獣による農作物の被害状況や被害防止対策等について学ぶ特別講義を実施しました。農作物を鳥獣から守るためには、「近づけない」「侵入させない」、それでも駄目なら「捕獲する」とした基本の考え方を学びました。

ICT等の最新農業機械の実演

ICT等の最新農業技術は、農業の各分野で急速に導入が進んでいます。民間企業の協力の下、水稲で省力低コストが期待できる「密苗田植機」、田植え時の疲労軽減や作業性の向上が期待できる「GPS機能直進アシスト田植機」、農業分野でも活用が期待されている「ドローン」等の操作体験を行いました。最新の農業技術を学び、2年生が「水稲の密苗移植」をテーマに卒論研究に取り組んだ結果、関東プロジェクト成果発表会で上位入賞を果たしました。



密苗田植機の操作実演